

バンクーバー便り8

バンクーバー時間：2023年6月29日(木)19時40分

日本時間：2023年6月30日(金)11時40分

皆さんこんにちは。ナッカンがバンクーバーからお便りします。

5号でバンクーバーでの医療についてご紹介しました。今回はその体験談編です。

私も年齢と体重の重みに耐えかね、人並に変形性膝関節症(炎)が左足に出ました。これも広島メタルクリニックを閉じた理由の一つでした。治療の効果もあり小康状態が続いており、バンクーバーに来て半年間は無理な歩行や昇降をしなければ痛みも軽くすんでおりましたが、そのためか知らず知らず無理が重なっていたのでしょう。

6月初め、長い白日の初夏、娘の小学校で映画会—校庭の中に張られた大きな白布に赤胴鈴之助が活躍する真夏の夜の映画会を懐かしく連想しました—が行われ、家族で出かけました。この日は左膝に少し痛みを感じておりました。映画は小学校の体育館で上映され、沢山の子ども達とその家族で結構な賑わいでディズニー映画を観るところではありません。浴衣姿の娘も友だちの間を飛び回っています。子供や大人がきちんと地べたに座り、声をそろえて笑い歓声を上げるというかつて日本で味わった雰囲気はまるでありません。とりあえず映画の終わる時間まで、持ち込んだ折り畳み椅子に腰かけてチョコを食べておりました。映画も終わり、三々五々、観衆は引き上げていきましたが、私は歩こうとすると左膝に激痛が起こり、やっとの思いで家にたどり着きました。

この事態に私も覚悟を決め、ホームドクターHD(こちらではファミリードクターと呼ぶ人が多い)を受診することにしました。カナダ医療事情の体験と思って受診予約を取りました。5号でご紹介した殺風景なオフィスで受付嬢に手続きをしてすぐに診察室に通されました。前回通り、我らのHDの登場を狭い診察室で息を殺して待つておりました。やがてインド系のHDが現れ、静かに問診、左右の膝を視診、そして軽く触診して、お終い。紹介状を持ってレントゲンを撮りに行って欲しいとのことで、薬は希望なら痛み止めの塗り薬を併設の薬局でどうぞ、とのこと。ボルタレン軟膏を買って受付でもらったレントゲン施設のリストと紹介状を持ってその日は帰宅。家から一番近いレントゲン専門クリニックを探し、電話すると予約なしのwalk-in。近いといっても車で15分程度、しかもクリニックのあるビル前は工事中。駐車場からビル2階フロアに通じる短い階段を痛む足を引きずりながら昇り、2階に上っても右も左も分からず、通行人に訪ねると目的のクリニックは4階とのこと。エレベータを探すと、調整中か修理中で使用禁止。再び不自由な脚で4階まで。放射線専門のクリニックではそれほど待つこともなく検査室へ案内されました。ざっと見たところ検査室は2室位。その1室に準備をして入ると、中国系の技師の人が現れ、立ったままで膝のレントゲンを2,3枚撮影して終了。「結果はホームドクターに伝えるので連絡あるまで待つて」とのこと。「何日位待つのか」と聞いても「I don't know」で終わり。

いつHDから電話があるかと待っていると、3,4日して電話があり、再訪問。HDは「レントゲンは心配いらない」と気休めではなさそうに話し、「希望なら理学療法の紹介状を書く」とのこと。今回の膝関節騒動は一応、幕となりました。日本でしたら1日で済むことを、1週間以上を要して延べ3回通院しました。どの病院も無料でしたが。